



世界のクリスマス

世界中でお祝いされているクリスマスですが、国や地域によってお祝いの仕方が大きく異なるようです。国際色豊かなイエズス会神父・ブラザーに、それぞれの国でのお祝いの様子を聞いてみました。



【スロベニア】(ミヘルツッチ・ヤネズ神父)

アルプス山脈麓のスロベニアでは地面が雪に覆われる前にクリスマスの準備が始まります。晩秋に森へ行って集めておいた苔は、クリスマススイブに家族で作る御降誕の馬小屋の場面に使います。中央には聖家族苔の地面に羊飼いと羊を置き、公現祭の前にはそこにラクダと東方の三博士を加えます。教会や他の家で作った馬小屋を見に訪ねて行って、力作を目にするのは大きな楽しみでした。また、クリスマススイブと大晦日と公現祭前夜に、家族みんなでロザリオを唱えながら聖水とお香で家中祝福してまわるというのも伝統行事の一つです。

最近では、子供たちが東方の三博士に仮装して家々を廻り、クリスマスキャロルを歌って宣教師の為の献金をあつめるという古い伝統が「復活」したそうです。

【韓国】(具 正護神父)

韓国では一九七〇年代後半から降誕祭に際して、韓国仏教の代表者がカトリック教会に祝賀のメッセージを送るようになり、いまだに続いています。また、それがきっかけとなって、当時のソウル大司教区長であった金寿煥(キム・スファン)枢機卿が釈迦誕辰日(旧暦四月八日)に祝賀のメッセージを送りました。

今も韓国のカトリック教会と仏教は互いに尊重し合い、宗教間の対話を続けています。

【コンゴ】(ルサラ・ル・ネ・ンクカ神父)

アフリカのクリスマスは活気があります。ミサではドラム、ゴング、ギターや美しい音色の民族楽器のリズムに合わせて手を叩いて歌い、踊ります。教会は白い布と白と緑の花で飾られ、「クリスマスおめでとう」や「救い主がお生まれになった」などと書いた紙を壁に貼ります。夜のミサは大人だけの荘厳なミサですが昼間はたくさん子どもたちが皆きれいな服をきてミサにあずかり、ミサの後、飾つてある馬小屋のまわりに集まって幼子イエスにご挨拶。両親や家族、友達のためにもお祈りし、皆で写真を撮ります。

【オーストラリア】(ジャックス・マイケル神父)

オーストラリアのクリスマスは、夏の暑さと同時にやってきます。クリスマスの買い物は、短パンとTシャツ姿。サンタクロースはビーチで、サーフボードか救命ボートに乗ってやってきます。トナカイを休ませるために、カンガルーをお供にすることも。屋外で、クリスマスディナーを食べ、ビーチや裏庭でクリケットをしたり、泳いだりするのは、オーストラリアのクリスマスの日によく見かける光景です。新しい水着や浮き輪などのビーチ・グッズは、プレゼントの定番です。クリスマスツリーや柵の代わりに、クリスマスブッシュという、小さな赤い花の植物で飾りつけをします。



【ベトナム】(ゲエン・ヴァン・テー神学生)

クリスマスチャンが人口の割に過ぎないベトナムでは、今ではクリスマスはクリスマスチャンではないベトナム人にとっても親しみやすいお祭りです。待降節の時から教会だけでなく、店でもスーパードでもベツレヘムの馬小屋やクリスマスツリーが飾られます。どこにい

っても、カラフルなイルミネーションであふれています。クリスマススイブはクリスマスチャンもそうでない人も教会へ行って、クリスマスの聖歌を楽しんだり、素敵な馬小屋の飾りの写真を撮ったりします。

【イギリス】(マイク・ミルワード館長)

イギリスのクリスマスプディングはケーキのようなものですが、伝統的に布袋に入れ吊るして干しておくので、ハンドボールの半分位の丸い形になります。ピカピカのコインを中に隠す習慣もありました。とあるフランスの貴婦人がクリスマスプディングをおいしく味わった後に作り方を聞きました。材料はレーズンとドライフルーツ・黒砂糖・ブランデーと卵：などはともかく、ラードと聞いた途端、「ゲーキにそんなものが！」と悲鳴を上げました。何週間も何か月も前に仕込んだ生地を、蒸して温めると聞いたときには顔が蒼白に。幸いに、プディングの中には隠されていたコインは彼女の口には入りませんでした。もし、材料のひとつがコインだったと知ったら…。プディングの中のコインをもらう人は幸せになると言われています。が、歯を折らないように注意しなければなりません



■掲示板

★聖三木図書館友の会会報「ゆるし」八号に寄稿されたアイコン画家、鞠安日出子さんが長野県に「羊草庵アイコンの家」を開設されました。鞠安さんの作品は上智大学をはじめ、教会、多くの修道院、折りの家に展示されていますが、「アイコンの家」では、外国のアイコンコレクション、アイコン関連資料なども公開されています。

住所 長野県上伊那郡宮田村新田二〇三九の九

羊草庵アイコンの家

電話・ファックス 0265-95-5185 (事前に要連絡)

★聖三木図書館はフェイス・ブックを始めました。タイムリーなテーマの本を集めたコーナーの紹介や、注目の本など随時紹介していく予定です。

利用者の声

聖三木図書館への感謝

宮本 英樹

私は定年後に偶然に銀座の教文館書店でリーゼンフーバー神父著「知解を求める信仰」という本に出会い、それから同神父の入門講座に通いそして受洗の恵みを頂きました。受洗後も知らない事分からない事の多い中で聖三木図書館の存在を知りすぐに入会しました。それから図書館の蔵書を利用して様々な本をいわば乱読をしていくうちに不明だった事の多くがわかるようになっていきました。聖三木図書館には感謝の気持ちで一杯です。

さて最近読んだ本ではペトロ・アルペ著「若き世代に與うー人生案内」が印象に残っています。昭和二十五年刊行ですから七十年前の本ですが、アルペ神父が三十五通の学生宛の手紙という形式で信仰に関わる主要なテーマについてきわめて率直に見解を述べておられて現在でも心に深く響くものがあります。

最近の新聞書は多いが中身は玉石混交で数か月もするとその多くは消えてしまいます。古くても価値ある本と出合うことが難しくなっています。幸い聖三木図書館には貴重な古今東西の本がたくさん集められています。まさに本の宝島です。これからも宝物を探しに聖三木図書館に通いたいと思っています。



リーゼンフーバー著
「知解を求める信仰」
アルペ著
「若き世代に與うー人生案内」

***** 今聖三木で読まれている本・新しい本 *****

- | | | | |
|--|--|--|--|
| 聖書を読んだ30人
愛と英知の道：すべての人のための霊性神学
ウィリアム・ジョンストン著 | 鈴木範久著 | 映画とキリスト
神様のファインダー：元米従軍カメラマンの遺産
ジョー・オダネル写真 | 岡田温司著
坂井貴美子著 |
| 法然：イエスの面影をしのばせる人
「神」の発見：銀文字聖書ものがたり
よい音楽は神の姿を映し出す
詩集 見えない涙
朝夕に祈る主の祈り：30日間のリトリート
私の生きた証はどこにあるのか：大人のための人生論
H.S.クシュナー著 | 井上洋治著
小塩節著
国本静三著
若松英輔著
大嶋重徳著 | 宗教改革史
アートで魅せる旧約聖書物語
鳥賊墨の一筋垂れて冬の弥撒
キリスト教は「宗教」ではない：自由・平等・博愛の起源と普遍化への系譜
こころの深呼吸：気づきと癒しの言葉 366
ゴッホと「聖なるもの」
宗教国家アメリカのふしぎな論理 | ローランド・ベイントン著
フレデリック・ボワイエ著
セルジュ・ブロック絵
前田万葉著
竹下節子著
片柳弘史著
正田倫顕著
森本あんり著 |
| いくつになっても、今日がいちばん新しい日
シンプリー・ジーザス：何を伝え、何を行い、何を成し遂げたか
しあわせをつなぐ台所：人生のちょっと先輩からの知恵
老いの僥倖 | 日野原重明著
N.T.ライト著
こぐれひでこ他著
曾野綾子著 | 教皇フランシスコの著作
愛のよろこび：使徒的勧告
いつくしみ：教皇講話集 | |

お知らせ

❖冬期休館

十二月二十三日(土)～一月五日(金)まで休館いたします。休館中の返却は入り口右手の返却口にお願いたします。

❖冬期長期貸出

十二月一日(金)より長期貸出を始めます。

❖館報「みき」は聖三木図書館内でご自由にお持ちいただけます。また、当館ホームページでは「みき」とご好評をいただいております。各号をご覧いただけます。郵送ご希望の方はその旨お申し付け下さい。

友の会からのお願い

❖聖三木図書館友の会発行の聖三木図書館利用カード更新手続きと会費の納入はカウンターで受け付けております。利用カードの有効期間は一年です。

年会費 一般 二〇〇〇円

学生 一〇〇〇円

賛助会員 五〇〇〇円・一〇〇〇〇円

❖年会費をお振込みで納入される場合

みずほ銀行四谷支店 普通預金

口座番号 115848

口座名義 イエズスカイセイミキトショカントモノカイ

(*お名前の前に会員番号をお書き下さい。)

❖新規入会の手続きは随時カウンターで受付けます。住所確認のため、免許証・保険証をご提示ください。

聖三木図書館報『みき』第4号

イエズス会聖三木図書館

〒102-0083 東京都千代田区麹町6-5-1

岐部ホール2F TEL: 03-3262-0364

URL: http://www.jesuits.or.jp/~j_semikibun/